

とよ・たち美肌通信

2月号 Vol.151



2月

今月号のとびたち美肌通信の表紙は、
大好きな人へのチョコレートのプレゼント♡
バレンタインのしあわせそうな女の子たちと、
鬼は外！福は内！たんぽこ餅まきあるどー！！
元気な鬼さんの節分の会です。
プール教室に通っていて、プールでもできる事は、
お家で料理のお手伝いをしてくれる女の子が

描いてくださいました。



ありがとうございます。

院長はじめ
スタッフ一同おめでとう
感謝いたします



哲学者である森信三氏は仕事の概念について、「職業とは人間各自がその生を支え子と共に、さらにこの地上に生を享けたことの意義を實現するために不可避の道である。それは「職業即天職」観に人ははもと徹するべきである」と言っている。要は仕事を生活の資源を得るためだけにやっている人と天職と心得て打ち込んでいる人では1年、3年、5年、10年と経時的には兔と亀の話の如く逆転するばかりでなく、その充実度も天と地程の差が生じることであるということ。

仕事に関してもう一つ大切なことがある。それは「休まず続ける」ことである。江戸時代後期の教育者である吉田松陰は、「学問の大禁忌は作事^{さくじ}廢^{てつ}にあり」と言っている。学問を修めていく上で最も良くないことは、やったりやらなからたりすることだと崇敬な金言を残している。反復することがいかに大事かということである。一部先月早でも似た事を書きました。が、天地悠久の太古から、同じことを繰り返していくことで地球が生まれ、そこに単細胞

生物を発生させ、そして人間にまで至らしめた。

この事実が語る通り、一念を黙々と繰り返して行くことで成功が得られ、徳力となるという教訓なのであると思う。同じくイタローも名言を残している。「小さなことを多く積み重ねることが、とんでもないところに行くための道」なのだ。

今現在、自分という一人の人間がこの世に生を受けたこと、何を糧にこの命を生き抜いていくのか悩み苦しんでいる人は多いと思います。

私が思うに、天は必ずすべての人にその役割使命を与えているはずで、私をそれには気がついてその役割を果たしていきたいと思う。

唐時代の詩人李白の言葉を紹介します。

「天我が材を生じる必ず用あり。材とは身体の意味である。天は自分という人間をこの世に生ませた。天が生んだ自分には必ず用、即ち役割使命があるということである。

隕長、揮